

# 見出しの文法: テンス・アスペクト表現の類型

青山和輝

k.aoyama.macho@gmail.com

キーワード: ニュース見出し テンス・アスペクト トルコ語 アゼルバイジャン語

## 要旨

本論文は、ニュース見出しのテンス・アスペクト表現にみられる、一般の書き言葉とは異なるふるまいについての研究である。英語や日本語を含む言語横断的な分析により、テンス・アスペクト表現において「過去時を指す無標・有標形式の慣習化」および「アスペクト・モダリティ的意味の拡張」の傾向がみられることを指摘する。またアゼルバイジャン語の見出しがこの傾向に反するふるまいを見せることを明らかにし、見出し研究の成果を一般の書き言葉研究へ還元する可能性を示唆する。

## 1. ニュース見出し研究

「ニュースの見出し」という文体は、字数制限が厳しいこと、記事内容の要約であることなどの制約を課されるために、特殊な文体が発達する。一般の書き言葉に見られる文法体系が簡略化され、もしくはわずかな差異が強調され慣習化する傾向がある。

現代的な新聞には必ず見出しが存在し、そのため現代的な新聞の存在するところでは、しばしば見出しを対象とした言語研究が行われる。Straumanns (1935) による英語見出し研究を嚆矢とし、ドイツ語 (Sandig 1971, Kniffka 1980 など)、ペルシア語 (Khodabandeh 2007)、アラビア語 (Watson 1999) など。しかし管見の限り、多くは高々2言語の比較にとどまっており、3言語以上にわたる対照研究は少ない。見出し研究は、包括的な文法記述 (野口 2002, 森山 2008)、省略表現 (菅野 1993, 水内 2001)、見出しの発生・通時的変化 (板村 2009, 奥 2008) と様々なテーマを含むため、そもそも多言語対照研究をするうえで必要なデータが揃っていないことが多いように思われる。

そこで2節では、テーマを「見出しにおけるテンス・アスペクト形式」に絞ってデータを揃え、通言語的比較を試みる。ここではささやかながら英語、フランス語、日本語、アラビア語、ペルシア語の5言語を対象とし、2点の通言語的傾向を指摘する。1点目は見出しにおいて「テンス・アスペクト形式の使い分けの簡略化」がひろく観察されることである。特に過去時を指す形式は、現在および未完了の形式で表されることが無標形式として慣習化し、それに応じて有標形式が発生することを見ていく。2点目は有標形式において「アスペクト・モダリティ的な意味の拡張」がみられることである。有標形式が本来のテンス的な意味を喪失し、数日以上前に起きた出来事がようやく明らかになったことを示す「発覚」、過去の出来事の背景や原因を説明する「後日談」、珍しい出来事が起きたことを示す「驚き」など、アスペクト・モダリティ的な意味を示すように発達することを明らかにする。

3節では、従来ほとんど分析の俎上の乗せられることのなかったトルコ語およびアゼルバイジャン語の見出しを記述する。アゼルバイジャン語の見出しでは、前述の傾向に反し、ニュースサイトによ

り用いる無標形式が異なる(単純過去形-dI と完了形-mIş/-Ib が様々に使い分けられる)という特色が確認され、見出しの類型研究上、注目に値する。さらに見出しの分析により、一般の書き言葉の分析では見過ごされてきた特徴を明らかにできる可能性について述べる。

## 2. 見出しのテンス・アスペクトの体系

*Le Monde* 紙を分析した Mouillaud and Tétu (1989: 125)<sup>1</sup>によると、フランス語見出しの動詞表現には次の4つの特徴が見受けられたという。

- (1) a) the suppression of spatial and particularly temporal markers;
- b) the use of the present tense of verbs (where they are used) as opposed to – or in place of – any other tenses;
- c) the replacement of verbs by nominalisations;
- d) the suppression of declarative verbs and the disappearance of signs of speech (quotation marks; personal pronouns)

見出しで時間表現が抑制され、名詞化してテンスを明示しなくなったり、現在時制を用いたりする傾向は、何もフランス語だけに見られるものではない。英語も同様である。報道記事は通常、過去の出来事を伝えるのであるから、現在形を用いるのは奇妙といえは奇妙である。Chovanec (2003)はこの事実について、英語の見出しでは、現在形が過去時を指す無標な(unmarked)形式、過去形は有標な(marked)形式に慣習化していると指摘する(表1)。すなわち、現在形が過去時を指すのは、会話や小説では頻度が低く、話し手が特定の出来事や動作を強調するための修辭的な技法(“internal evaluation device”, Schiffirin 1981)と考えられるが、見出しではむしろそれが基本的であり、過去形などのほかの形式は少数派になるように慣習化している。

表1. The contrary character of markedness of the present and the past tenses when referring past events in various contexts (Chovanec 2003: Fig.1)

	Status of the tense referring to past events in:	
	conversation, fiction	headlines
<b>Present tense</b>	Marked ( <i>historical present</i> – used as an internal evaluation device)	Unmarked (‘ <i>headline present</i> ’ – used conventionally)
<b>Past tense</b>	Unmarked	Marked

本節では見出しにおけるテンス・アスペクト形式の使い分けを、この無標・有標という視点から分析する。具体的には、(2)に挙げる観点をもとに先行研究を解釈し、新たな分析を加えていくことになる。

<sup>1</sup> (1)は、Mouillaud and Tétu (1989: 125)の内容を Develotte and Elizabeth (2000)が再構成したものである。

- (2) a. 見出しにおいて過去時を指す無標のテンス・アスペクト形式は存在するか。  
存在するとすれば、それはどのような形式か。
- b. 見出しにおいて過去時を指す有標のテンス・アスペクト形式は存在するか。  
存在するとすれば、どの形式がどのような意味で用いられるか。
- c. 見出しにおけるテンス・アスペクト形式の使い方は、通常の手書き言葉と異なるか。

なお動詞のテンス・アスペクト形式については、名称の混乱を避けるため、略号を共有せずグロスには一般に通用している日本語を用いた。また 2.1 節、2.2 節の全例文は和訳を引用者が付した。2.4 節および 2.5 節の例文では、英訳は原典からの引用であるが、グロスは引用者が付した。

## 2.1 英語

英語のニュース見出しで過去時を指すのに用いられる無標形式は現在形である。通常の手書き言葉では現在形、現在完了形、過去形で表し分けるところが、見出しでは現在形に一本化される。すなわち、a) 現在も存続する出来事や状態に言及したり、b) 過去の出来事の結果として獲得された状態を示したり、c) 過去に発生したことが明白な出来事を示したりすることもある (Chovanec 2005)。

- (3) a. *Ocean warming threatens Antarctic wildlife*  
海洋温暖化、南極の野生生物を脅かす
- b. *Cave find dates dawn of creativity*  
洞窟発見、創造性の始まりの年代を示す
- c. *Ronnie Barker dies aged 76*  
ロニー・バーカー、76 歳で死す (Chovanec 2005: (1)–(3))

これは見出しに特有の現象であって、記事本文では見受けられない。例(4)は見出し(3c)の記事全貌であるが、同一の出来事を指すのに見出しで現在形が使われる一方、リード(=本文第一段落)以下の段落では現在完了形や過去形が用いられており、時制が「ズレ」ていることが分かる。

- (4) *Ronnie Barker dies aged 76* [HEADLINE] (=4c)  
ロニー・バーカー、76 歳で死去

*Ronnie Barker, star of The Two Ronnies, Porridge and one of Britain's best-known comedy actors and writers, has died aged 76.* [LEAD]

『ふたりのロニー』『入獄』に出演したスター、イギリスで最も著名な喜劇俳優であり作家のロニー・バーカー氏が、76 歳で死去した。

*Barker, who with partner Ronnie Corbett made up one of the best-known comedy double-acts of the 1970s and 80s, died yesterday at his home following a long illness, his agent Rosalind Chatto announced this morning. He had been suffering from heart trouble.* [2<sup>nd</sup> PARAGRAPH]

相方ロニー・コーベット氏と1970~80年代に有名なコメディアン・コンビを結成したバーカー氏が、持病により昨日、自宅で死去した。代理人ロザリンド・チャット氏が今朝公表した。バーカー氏は心臓病を患っていた。

*"He died peacefully and his wife was with him. He had been nursed at home for a long time," Ms Chatto said. [3<sup>rd</sup> PARAGRAPH]*

「バーカー氏は妻のとなりでおだやかに亡くなりました。ずっと自宅で介護されてきました」とチャット氏は語った。

(Chovanec 2005: (4))

一方で、過去形の見出しも少数ながら観察される。過去時を現在形で標示するという慣習があるにも関わらず、過去形が用いられるということは、何らかの意味で有標なのである。家木(1995: 44-45)や Chovanec (2005: 76-80)の指摘をまとめると、英語見出しで過去形が用いられるのは以下の4つの場合にまとめられる。

i) 過去に起こった出来事や背景や原因を説明する記事の見出しで過去形が用いられる。これを家木は大過去の、「後日談」的用法などと呼ぶ。

(5) *July 7 bombers staged dummy run*

7月7日の爆弾犯、[テロの]リハーサルをしていた

(Chovanec 2005: (5))<sup>2</sup>

ii) 修飾節内に過去形が用いられる。例(6a)は主節の動詞が現在形である一方、関係節内の動詞は過去形である。例(6b)は従属節内の動詞が過去形になっている。

(6) a. *Couple who hushed boys in cinema are beaten up*

映画館で少年らの話し声を注意したカップルが暴行される

b. *Teacher tells jury how he battered wife with iron bar*

教師、いかに鉄の棒で妻に暴行を加えたか陪審員に語る

(Chovanec 2005: (8)-(9))

iii) 関連記事の見出しで過去形が用いられることがある。ひとつの記事で完結せず、様々な観点から書かれた関連記事に分散している場合、これらの関連記事では出来事の概略が繰り返されることになるから、いふなれば、独立した記事ではない。

(7) *Soldiers gunned down after fury over searches*

*We won't send more troops, Blair tells Commons*

*'We would not take dogs into Iraqi homes'*

*Sergeant refused to abandon his trapped comrades*

*Resistance may grow to avenge wounded pride*

<sup>2</sup> The Guardian 紙 2005/9/20 の記事と思われる。

捜査へ怒り 兵士たちに銃撃  
 これ以上の派兵しない プレア、下院に語る  
 「犬どもをイラクの家に帰らせるものか」  
 軍曹は捕まった戦友を見捨てようとしなかつた  
 誇り回復のため抵抗勢力伸長か (Chovanec 2005: (18))

iv) 第三者の発言を引用<sup>3</sup>したために、過去形が流用されてそのまま使われている場合がある。引用符の中は、見出しの慣習が通用しないある種の聖域になっていると言える。

(8) a. *Girlfriend "hid in bush"*

ガールフレンドは「茂みに隠れた」

b. *George Bush: 'God told me to end the tyranny in Iraq'*

ジョージ・ブッシュ: 神がイラクの圧政を終わらせるよう言いたもうた

(Chovanec 2005: (10)–(13))

このうち i)–iii) の用法は家木 (1995: 44) の示唆する「背景化」用法に集約されると考えられる。iv) のように引用内部が聖域になる現象は、日本語など他言語でも観察されるが、これはあくまで「見出しの慣習が届かない場所」なのであって、この用法は本論で以後無視する<sup>4</sup>。

なお、未来時を指す場合は、確実な未来の出来事は (be) to を、それほど確実ではないときは助動詞 will を用いる、など微妙な使い分けがあるとされる (家木 1995, Chovanec 2014)。

## 2.2 フランス語

フランス語の見出しでは主に「直説法現在 (present)」と「直説法複合過去 (passé composé)」が使われる<sup>5</sup>。現代フランス語の書き言葉では、直説法複合過去が現在とつながりのある過去の事態を表し、直説法単純過去 (passé simple) が現在とつながりが薄い遠い過去の事態を表すのが一般的である。見出しではこの役割がシフトする。記事本文で複合過去を用いるような記事の見出しは現在である一方、複合過去の見出しは、出来事が距離を置いて眺められ、変更不可能な完了状態に至っていることを示す (Thogmartin 1991: 261)。

現在が、過去時を指す無標の形式である。公式決定など、現在、未来にわたって有効な事柄だけでなく、出来事の発生した時間が特定できる、通常の書き言葉なら複合過去を用いるべき場面でも現在を用いる。

(9) *Les terroristes frappent sur les Champs-Élysées* [直説法現在]

テロリストがシャンゼリゼを襲撃

(Thogmartin 1991: 261)

<sup>3</sup> 厳密には、ジャーナリズムにおけるこのような引用は直接引用ではなく、発言を要約したものであることが多い。

<sup>4</sup> Chovanec (2005, 2014) では heteroglossia の一例とされている。

<sup>5</sup> Thogmartin (1991: 260) が調査した見出し 270 本のうち、定形動詞を含むものが 66 本あり、その内訳は直説法現在 48 本、直説法複合過去 10 本、直説法半過去 (imperfect) 2 本、aller+不定形 (infinitive) 2 本、直説法大過去 (pluperfect) 1 本、条件法現在 (conditional) 2 本、条件法過去 (conditional perfect) 1 本の由。

複合過去は過去時を指す有標の時制形式として用いられる。ある出来事が起こる可能性があったが結局起こらなかった場合や、(通常書き言葉における単純過去のように)出来事の開始点・終了点を示す場合、出来事が変更不可能であることを示す場合などに用いられる。頻度はさらに低いものの半過去の見出しも見られ、繰り返された出来事を示す。

- (10) a. *RER: L'intuition a fait échec aux tueurs* [直説法複合過去]  
RER(首都圏高速交通網):直感が殺戮を防いだ
- b. *Les otages de l'UNITA sont arrivés à Lisbonne* [直説法複合過去]  
UNITA の人質がリスボンに到着した
- c. *Textile: Le gouvernement français a capitulé* [直説法複合過去]  
仏政府は降伏した (Thogmartin 1991: 261–262)
- (11) *Les permissionnaires ivres agressaient les passagers du Paris-Nancy* [直説法半過去]  
酔った休暇軍人ら パリ・ナンシー列車の乗客を攻撃 (Thogmartin 1991: 262)

### 2.3 日本語

日本語の見出しでは、過去時を指す無標のテンス・アスペクト形式はル形である。見出しにおけるル形は、現在進行中の状況から、過去に起こった出来事まで表すことができる。このことは野口(2002)、森山(2009)などに指摘されている。

- (12) a. JR九州、赤字回避の見通し 計画通り今秋の上場めざす  
[ル形・現在進行] (asahi.com 2016/4/26–4/26)<sup>6</sup>
- b. 熊本地震の後、水源枯れる 「日本一長い駅名」由来の地  
[ル形・過去] (asahi.com 2016/4/26–4/26)

文献にはそれ以上の指摘が見られないため、新聞およびニュースサイトからデータを収集した結果、有標の形式としては、「驚き」「後日談」を示すタ形、「発覚」を示すテイタ形が用いられていた。例(13a)は、東大野球部が明大に勝利するという非常に珍しい出来事を報告する記事。例(13b)は高校野球部へのインタビュー記事であり、インタビューの時点を参照点として、それよりも過去の出来事を指示している点で大過去といえる<sup>7</sup>。例(14)は 4/21 に急死したロック歌手プリンス氏について、生前の状況を掘り返す記事である。タ形で驚きを示したり、テイタ形で発覚を示したりするのは、日常の書き言葉・話し言葉にみられる用法をそのまま受け継いでいると見られる。

- (13) a. 12年ぶり 東大が明大に勝った (朝日新聞 2016/4/19 朝刊 14版 21面)
- b. 選抜後 競争始まった (朝日新聞 2016/4/23 朝刊 13版 21面)
- (14) プリンスさん生前、金銭問題抱えていた (asahi.com 2016/4/26 – 4/26)

<sup>6</sup> asahi.com に 2016 年 4 月 26 日付で掲載された記事を、同 4 月 26 日に閲覧したことを示す。以下同様。

<sup>7</sup> 体系的な調査は行っていないが、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞などの主要日刊全国紙を比較すると、特に朝日新聞のスポーツ欄でタ形の見出しが多く観察される。

なお、名詞文見出しには助詞を用いた独特なテンス・アスペクト・モダリティ体系<sup>8</sup>が見られる(野口 2002、森山 2009)。日本語の見出しでは、動詞文と名詞文で別々のテンス・アスペクト(・モダリティ)体系が作り上げられているといえるだろう。

## 2.4 アラビア語

アラビア語の動詞は、終了した行為を表す完了形と、終了していない行為を表す未完了形のアスペクト対立を持つのみであり、厳密には、過去時・現在時・未来時などのテンスは文の前後関係を含めた背景から判断するほかない(ライト 1987: 1-2)。ただし、報道記事はすでに完了した出来事を扱う場合が多く、一般に完了形が用いられると考えてよい。

アラビア語の見出しは形式上、主に a) 名詞句、b) 動詞が削除された「名詞文」<sup>9</sup>、c) 未完了形の動詞をとる「名詞文」、の3つに分けられる(Watson 1999: 166-170)。c) の場合、記事本文で完了形が用いられる一方、見出しでは未完了形が使われる。過去時を指す無標の形式は未完了形であると言えるだろう<sup>10</sup>。

(15) a. *maqtal khams rahā'in fī ma'ārik dāmiyah*  
killing five hostages in fights bloody  
“Killing of five hostages in bloody conflicts”

b. *ṣiṣ fī al-mi'ah nisbat al-numuww fī al-iqtisād al-yābānī*  
six in the-hundred ratio the-growth in the-economy the-Japanese  
*khilāl al-'ām al-māḍī*  
during the-year the-last  
“6% growth in the Japanese economy over the past year”

c. *ughandā tastajwib sūdāniyyīn wa-tudāhim maqārr*  
Uganda question.未完了 Sudanese and-raid.未完了 headquarters  
*munazzamāt 'ighāthah*  
organization aid  
“Uganda questions Sudanese and attacks aid organization headquarters”

(Watson 1999: 167-170)

<sup>8</sup> 助詞「へ」を後続した形式が未来時を指す。「も」「か」は不確定情報、可能性を示す。「を」は勧誘、要望、当然などのモダリティ表現となる。

(i) 殺人容疑で少年再逮捕へ [へ形・未来時] (野口 2002: 115)  
小渕前首相が緊急入院 2日未明 脳こうそくの疑いも [も形・可能性] (野口 2002: 103)  
ボルボト氏 死去か [か形・可能性] (野口 2002: 103)  
政府は志を新たに出直しを [を形・要望] (野口 2002: 102)

<sup>9</sup> 「名詞文」とはアラビア語学の術語で、VS(C) 語順を「動詞文」、SV(C) 語順を「名詞文」という。動詞活用形に差異が見られるほか、「名詞文」では主語が強調される。Watson (1999) では noun clause とあるところ、一般的な用語法に沿って「名詞文」と訳出した。なお b) において「名詞文」と「動詞文」の区別が可能なかは明らかでない。

<sup>10</sup> 森山 (2009: 19) は中国語において、完了した出来事には「了」をつけてアスペクトを明示すべきところ、見出しではこれが省かれることを指摘している。



一方、有標の形式として完了形も見出しに現れる。完了形の見出しは、過去の特定の時間に起こっていたことが報告される場合、動詞の叙述する行為の結果がいまだに感じられる場合、状態変化を表す動詞を用いる場合、記者の直接体験や第三者の発言を引用する場合などに限られる (Watson 1999: 174–175)。アラビア語の有標形式の用いられ方には、英語などの場合に比べて、特に「完了」というアスペクトの意味が色濃く反映されていることが分かる。

動詞文の見出しも存在するが、これは数が少なく、主語が代名詞等であって明示的に出てこない場合、または否定詞と共に主語が不定になってしまう場合にしか出現しない。

## 2.5 ペルシア語

ペルシア語の見出しにおいて現在時制は現在時(進行)を、過去時制は過去時を、未来時制は未来時を指すが、これは通常の書き言葉と変わらないという (Khodabandeh 2007)。

- (16) a. *Reisjomhor be amrica mirævæd.*  
 president to America go.現在.3SG  
 ‘The president is going to the United States.’
- b. *Zelzeleh mazændran ra lærzand.*  
 earthquake Mazandaran ACC shake.過去.3SG  
 ‘Earthquake hit Mazandaran.’
- c. *Færda Shahed tæzahorat milyoni mærdom khahim bod.*  
 tomorrow witness demonstration thousand people 未来.1PL be  
 ‘Tomorrow we will see the massive demonstration of thousands of people’

(Khodabandeh 2007:105)

実際、Khodabandeh (2007) の統計によると、英語では現在形が約 80 % を占めるのに対し、ペルシア語では現在形が約 29 %、過去形が約 54 % を占めている (次ページ表 2)。これは、現在時と過去時が、英語ではともに現在形によって示されるのに対し、ペルシア語では別々の時制で示されることから導かれる自然な帰結である。

ペルシア語において過去時を指す形式は、基本的なものでは過去形、未完了過去形、現在完了形などがあり、それぞれテンス・アスペクトの観点から使い分けられているのであるが (Mace 2003)、こと見出しにおいては表に見るように、過去形以外の形式は、現在完了形一例を除いて全く出て来ていない (その一例は挙げられておらず、実状が分からない)。Khodabandeh (2007) のデータだけでは、有標の形式が認定できるのか、どのように使われるのかは分からないが、少なくともテンス・アスペクトの対立が単純化していると言うことはできるだろう。

以上、ここまで 5 言語の比較を行ったが、その全てで「過去時を指す形式が一本化されている」すなわち無標形式が慣習的に成立していることが確認できた。またペルシア語以外の言語では有標形式の用法についても概観し、「後日談 (大過去)」「驚き」などの用法が複数言語にわたって見



表 2. The distribution of tense and aspect forms  
in the English and Persian corpora (Khodabandeh 2007: Table 4.16)

Tense forms	English		Persian	
	N	%	N	%
Present	519	79.61	50	29.42
Past	30	4.61	91	53.53
Unmarked ( SCs + SAs)	31	4.75	27	15.89
Future	50	7.66	1	0.58
Present progressive	22	3.37	0	0.00
Present perfect	0	0.00	1	0.58
Total	652	100.00	170	100.00

られることが分かった。英語、フランス語、日本語、アラビア語では、現在時制相当の形式が見出しの無標形式に採用されているが、ペルシア語では過去時制相当の形式が採用されているという違いも明らかになった。

### 3 トルコ語・アゼルバイジャン語の見出し

前節の傾向を念頭に置きつつ、トルコ語、およびアゼルバイジャン語のニュース見出しを分析すると、どの言語とも異なる新たな様相が見えてくる。これらの言語研究では、従来、見出しでのテンス・アスペクトへの言及は非常に少ない<sup>11</sup>。今回、対照研究の俎上に乗せることで、その特色を明確に記述することができる。

#### 3.1 トルコ語

トルコ語の通常書き言葉において、過去時を指すのは過去形-DI と完了形-mİş<sup>12</sup>である。過去形と完了形は証拠性において対立している。完了形は伝聞や推測などを担い、驚きや皮肉を表すために用いられることもあるが、使用頻度は過去形と比べると少ない。昔話などの語りにはしばしば完了形が用いられるが(cf. 「～したそうな」)、ニュース記事本文には基本的に過去形が用いられる。

また、未来時を指すのに用いられるのは現在形-Iyor と未来形-AcAk である。現在形はいわゆる「現在進行」を担うほか、電車の発着など、起きることが確実な未来の出来事を、現在の延長とみなして表現することができる。未来形は、ある未来の出来事について、何らかの客観的証拠をもとに述べ立てるときに用いられる形式である。純粋な未来時制の形式とみなすことができる。これに加えて中立形-Ir/-Ar というモダリティ形式があるが、これは本質的に無時制(tenseless)であるため、文脈によって過去時、現在時、未来時のいずれも指すことができる。

さて、見出しに現れるテンス・アスペクト(・モダリティ)形式について、現地時間 2016/4/20 17:00 ~

<sup>11</sup> 言及が皆無というわけではなく、たとえば Yağbasan (2008: 124–125) は新聞第一面大見出し(manset)の構造について考察しており、様々なテーマにわたって分析しているが、ことテンスに関しては、統計のみで用法の分析がなく、その母数も 21 本と非常に少なく、ほとんど考察らしい考察もない。

<sup>12</sup> 大文字の I は i/ı/u/ü の母音調和、A は e/a の母音調和、D は d/t の子音交替を示す。

4/21 16:59 の1日間に掲載された記事について集計した結果を表3に挙げる<sup>13</sup>。中立形以外の形式が全て観察されたことになる。

表 3. トルコ語におけるテンス・アスペクトの使い分け

	Sabah.com.tr		Trthaber.com	
名詞句・名詞文	73	50.00%	93	38.11%
過去形-DI	48	32.88%	93	38.11%
完了形-miş	2	1.37%	0	0.00%
現在形-lyor	7	4.79%	29	11.89%
未来形-AcAk	11	7.53%	20	8.20%
中立形-Ir/-Ar	0	0.00%	0	0.00%
その他	5	3.42%	9	3.69%
合計	146	100.00%	244	100.00%

見出しでの使い分けは、通常の書き言葉から極端に乖離しているわけではないが、簡素化の傾向は見て取れる。過去時を指す形式として過去形と完了形が用いられ、しかも圧倒的に過去形の頻度が高い。完了形は有標形式として、「後日談」用法、そして驚きを表す機能を担う。例(17)は一般的な(近い)過去時を指す見出しである。例(18a)は 2012 時点でロシアがアサド退陣のシナリオも持っていたという暴露記事、例(18b)は母の死を隠して3年間のあいだ年金を不正に受給していた人物に関する記事の見出しである。いずれの記事も、過去の出来事に関する事実が「発覚」した状況であり、かつ、信じられない、という「驚き」が感じられる。

- (17) *TBMM Kürtçe önerge-yi yok say-dı*  
 国会 クルド語 議案-ACC 無い 見なす-過去.3  
 「国会は、クルド語議案を無視した」

(cumhuriyet.com.tr 15/9/14 – 10/18)

- (18) a. *Çarpıcı iddia... Rusya Esad-ın görev-i bırakma-sı-nı iste-miş*  
 驚くべき 声明 ロシア アサド-GEN 職務-P.3 解除-P.3-ACC 欲する-完了.3  
 「驚くべき声明……露、アサド政権の退陣を望んでいた」

(cumhuriyet.com.tr 15/9/16 – 10/18)

- b. *Öl-en anne-si-ni mummyala-yarak 3 yıl maaş-ı-nı çek-miş*  
 死ぬ-PTCP 母-P.3-ACC ミイラにする-CV 3 年 年金-P.3-ACC 引く-完了.3  
 「死んだ母をミイラにして、その年金を3年間受け取っていた」

(cumhuriyet.com.tr 15/10/26 – 10/27)

<sup>13</sup> 「名詞文」は名詞述語、形容詞述語など、定形動詞を含まない文を全て算入した。「その他」は動詞が義務形-mAll、命令形、複合的な時制など表外の形式をとったものを全て算入した。見出しが複数の部分からなる場合は、報道地や発言者などを除いた最初の部分のみ参入した。百分率は小数第三位で四捨五入した。

未来時を指すためには、やはり現在形と未来形が用いられるが、こちらはどちらが有標ということもなく分布している。現在形は現在進行中の出来事のほか、確定した近未来の出来事、間もなく発生する出来事を表すために用いられている。例(19b)は、11/1の再総選挙に配慮してサマータイムの終了時期を11/8までずらすという内容の記事。リード文には未来形で..."yaz saati" uygulamasını uzatacak(「サマータイム」適用を延長する予定)とあり、見出しとリード文で時制がずれている。

(19) a. *Bayern tut-ul-m-uyor!*

バイエルン つかまえる-PASS-NEG-現在.3

「バイエルンが捕まらない! (=無敗)」「現在進行」 (haberturk.com 15/9/19 – 10/18)

b. *Yaz saat-i süre-si uzat-ıl-ıyor*

夏 時間-P.3 期間-P.3 延ばす-PASS-現在.3

「サマータイム期間が延長される」〔確定未来〕 (milliyet.com.tr 15/9/19 -10/18)

一方、未来形は「推量」や「見込み」に用いられることが多く、声明や発表が為された段階の未来の出来事を示すことが多い。例(20a)はカーバ神殿で起きたクレーン崩落事故で、死者遺族や負傷者に補償金が支払われる旨の記事であるが、サウジアラビアの公式発表がおこなわれた段階の記事である。リード文では...belirtildi(…と明らかにされた)と間接的に述べている。例(20b)は著名な歌手タルカンが、選挙に出馬する自分のおじのためにコンサートを開くと発表した旨の記事。リード文には...açıkladı(と明かした)とある。一方、例(20c)は他の記事とは異なり、誰かの発言という体裁では書かれていない。単純計算による「見込み」である。

(20) a. *Kabe-deki facia-da: 400 ve 800 bin dağıt-ıl-acak*

カーバ-での 悲劇-LOC そして 1000 分配する-PASS-未来.3

「カーバの悲劇で: 40万リラと80万リラが分配されるとのこと」

(cumhuriyet.com.tr 15/9/16 – 10/18)

b. *Tarkan destekle-yeceğ-i aday için konser ver-ecek*

タルカン 支持する-PTCP-P.3 候補者 ために コンサート 与える-未来.3

「タルカンが(自分の)支持する候補者のためにコンサートを行うとのこと」

(cumhuriyet.com.tr 15/9/20 – 10/18)

c. *10 bin otobüs-le 9 milyon kişi seyahat ed-ecek*

1000 バス-INT 100万人 旅行 する-未来.3

「1万台のバスで900万人が旅行する見込み」

(haberturk.com 15/9/19 – 10/18)

はっきりしないものの、見出しでは現在形が現在時および確度の高い未来を、未来形が確度の低い未来および推測を担うように分業が進んでいる。トルコ語の見出しにおいても、テンス・アスペクト形式は(相補分布するように)単純化していると言えるだろう。

### 3.2 アゼルバイジャン語

アゼルバイジャン語<sup>14</sup>は系統的にトルコ語と同じチュルク諸語オグズ語群に属しており、時制体系は形式的にトルコ語によく似ているが、用法や使用頻度はやや異なる。

通常の手書き言葉では、過去時を指すのは単純過去形-*DI*か、完了形-*mİş* /-*Ib*<sup>15</sup>である。ニュースの本文では(どのニュースサイトでも)基本的に完了形-*Ib* が用いられる。-*mİş* はトルコ語のそれよりも、より完了の意味合いを強く有している(Shönig 1998: 254)のが特徴的で、たとえば経験を語る際、トルコ語では-*DI* を用いるのが自然であるが、アゼルバイジャン語では-*mİş* を用いる。双方ともよく用いられる形式といえる。

- (21) [トルコ語] *Japonya-ya üç defa git-ti-m.*  
 日本-DAT 3 回 行く-過去-1SG
- [アゼルバイジャン語] *Yaponiya-ya üç dəfə get-miş-əm.*  
 日本-DAT 3 回 行く-完了-1SG  
 「私は日本に3回行ったことがある」

アゼルバイジャン語は、見出しでのテンス・アスペクト形式の用いられ方がニュースサイトにより統一されておらず、様々に異なるという特徴を持っている。たとえば、同一の出来事(=アゼルバイジャン人のボクサーが金メダルを獲得したこと)についての速報記事の見出しに、*azertac.az* では完了形が、*axar.az* では単純過去形が用いられている。

- (22) *Azərbaycan boksçu-su Türkiyə-də beynəlxalq turnir-də*  
 アゼルバイジャン ボクサー-P.3 トルコ-LOC 国際的 選手権-LOC  
*qızıl medal qazan-ıb*  
 金 メダル 獲得する-完了.3

「アゼルバイジャンのボクサー、トルコの国際選手権で金メダル獲得」

(*azertac.az* 2016/4/16 – 4/17)

- (23) *Boksçu-muz erməni-ni döy-dü*  
 ボクサー-P.1PL アルメニア人-ACC 叩く-単純過去.3

「我々のボクサーがアルメニア人を叩き潰した」

(*axar.az* 2016/4/16 – 4/17)

形式別の統計により、過去時を指す形式の分布がニュースサイトによって異なることが分かる。表4は、ニュースサイト3紙で、現地時間 2016/4/20 17:00 ~ 4/21 16:59 の1日間に掲載された記事について集計した結果である<sup>16</sup>。集計対象の3紙は、対照的な結果が出るように選択したものであ

<sup>14</sup> 本節で扱うのはアゼルバイジャン共和国の公用語である(北)アゼルバイジャン語である。イランの(南)アゼルバイジャン語とは正書法含め多くの差異がある。

<sup>15</sup> 人称制限があり、-*mİş* 形は1人称で、-*Ib* 形は2/3人称で用いる。従って報道記事では基本的に-*Ib* 形が現れる。

<sup>16</sup> Q は k/q [g] の子音交替を示す。

るが、多くのニュース・サイトはこのいずれかによく似た分布をとる。

表 4. ニュースサイトによって異なるアゼルバイジャン語の無標形式

	axar.az		xezerxeber.com		azertac.az	
名詞句・名詞文	32	24.43%	14	16.67%	50	25.64%
単純過去形-dl	64	48.85%	29	34.52%	1	0.51%
完了形-lb	1	0.76%	13	15.48%	105	53.85%
現在形-lr	24	18.32%	11	13.10%	20	10.26%
未来形-AcAQ	5	3.82%	15	17.86%	15	7.69%
超越形-Ar	2	1.53%	1	1.19%	2	1.03%
その他	3	2.29%	1	1.19%	2	1.03%
合計	131	100.00%	84	100.00%	195	100.00%
平均語数	5.29 words		6.04 words		8.74words <sup>17</sup>	

表4によると、左列の axar.az ではほとんど単純過去形のみが用いられている。一方、右列の azertac.az ではほとんど完了形のみが用いられる。中列の xezerxeber.com のように、単純過去形と完了形がどちらも一定数の用例が確認され、どちらが無標形式とも言えない場合もある。このように、アゼルバイジャン語ではニュース・サイトによってテンス・アスペクト形式の用いられ方が大きく異なることが指摘できる。以下、それぞれ詳しく見ていく。

axar.az は単純過去形を無標とする。完了形1例は発言の引用であり、これを無視すると、徹底的に単純過去形を用いていることが分かる。今回の集計期間の記事ではないが、例(24)は axar.az で完了形が用いられている例である。アルメニア側がこれまで合計 118 回の停戦違反を行っていた旨報道する記事であり、出来事の時間に幅がある。ここでは完了形の経験用法と分析するが、驚き(そして非難)の感情が含まれていることも否定できない。

- (24) *Erməni təxribat-ı: atəşkəs poz-ul-ub*  
 アルメニア 破壊活動-P.3 停戦 壊す-PASS-完了.3

「アルメニアの破壊活動：停戦が破られていた」

(axar.az 2016/4/16 – 4/17)

対照的に azertac.az は完了形を無標とする。単純過去形1例(25)は、発言の引用でこそないが、図書館の設立45周年を祝うために“Vətən mənə oğul desə, nə dərdim (祖国が私に『息子』と言うなら、私は何と言おう)”というタイトルの記念式典が催された旨の記事であり、見出しはこれを踏まえた文学的表現と言える。末尾の“...”がそれを示唆している。従って、見出しが報道内容の要約とはいえない例(25)を無視すると、azertac.az では徹底して完了形が用いられていることになる。

<sup>17</sup> 今回の集計期間は偶然、azertac.az に法令・政令の名称を見出しとした記事(“Azərbaycan Respublikasının Nazirlər Kabineti yanında Dənizkənarı Bulvarı İdarəsinin Əsasnaməsinin və strukturunun təsdiq edilməsi, aparatının işçilərinin say həddinin müəyyən edilməsi barədə Azərbaycan Respublikası Prezidentinin Fərmanı” (2016/4/20) など)が多く、語数算出にあたっては外れ値として処理した。都合 159 件の見出しの平均語数を算出した。

- (25) *Vətən on-a oğul de-di...*  
 祖国 3SG-DAT 息子 と言ふ-単純過去.3SG  
 「祖国が彼に『息子』と言った……」

(azertac.az 2016/4/21 – 4/22)

xezerxeber.com では、単純過去形と完了形のいずれも十分な割合で用いられ、どちらが有標ともいえない。一見して使い分けの基準も明瞭でない。統一された方針があるのではなく、記事作成者、もしくは情報源の違い(通信社の記事の引き写しである等)が影響しているのかもしれない。

この現象を「アゼルバイジャン語では見出し文体の慣習化がまだ不完全であるために、使い分けに揺れがある」ととらえるか、「アゼルバイジャン語ではメディアの性質によって異なる慣習化が起きている」ととらえるかは難しい問題である。しかし少なくとも、このような差異は、いわゆる高級紙と大衆紙の区別に相関しているようである。表4からは、平均語数が少ない程、単純過去形の使用が多くなる傾向が見て取れる。高級紙に比べ、大衆紙では短い語数で直観的に分かりやすい見出しを作る傾向にある<sup>18</sup>。例(22)–(23)に比較されるように、azertac.az が言葉を尽くして客観的な要約見出しを作る一方、axar.az は端的で主観的な見出しを作っている。また実際、母語話者<sup>19</sup>は単純過去形の見出しによりセンセーショナルな印象を受ける旨報告している。

アゼルバイジャン語の単純過去形と完了形は、そもそも、通常書き言葉においても詳しい言語学的記述がなされていない。トルコ語より完了の意味が強いのは確かであるが、交換可能な文脈もある。また単純過去形はrealisだけでなくirrealisでも用いられるし、完了形では人称により全く由来の異なる形式が用いられるなど、その使い分けは複雑である。

この2つの過去時制のニュアンスの違いが、見出しにおいて強調されているとするならば、見出しでの使い分けを調査することにより、通常書き言葉における両者の違いを明らかにできるのではなかろうか。

#### 4. 展望

本論では見出しにおけるテンス・アスペクト形式が、言語によって様々に慣習化しているさまを概観した。特に過去時を指す形式については、各言語(各ニュースサイト)で無標な形式と有標な形式が慣習化していることを明らかにした。

本論は、各言語のテンス・アスペクト形式を教科書的な意味で大雑把に論じた点で「マクロ」な分析である。今後の展望としては、さらに対象言語を拡大する方向と、言語を絞って議論を深める方向が考えられる。対象言語を拡大する場合、言語の系統差と地域差について考えるべきであろう。トルコ語とアゼルバイジャン語が互いに似たふるまいを示した通り、系統的に近い言語は見出し文法が類似する。言語を絞る場合、3節で行ったように無標・有標という目的意識で分析を深める方向性があるが、特に現在時、未来時について分析する際にはアスペクト、語彙的アスペクトとの関

<sup>18</sup> Dor(2003:697)が述べるように、大衆紙の見出しは高級紙と異なり、きちんとした内容の要約になっていることが稀で、有益な情報を担っていないことが多い。慣習的な見出しの文法に沿わないこともしばしばである。平均語数が少ないのも、大衆紙がその読者に適応した結果と考えられる。

<sup>19</sup> Nahçıvan 県出身で、アゼルバイジャン語とロシア語のバイリンガルである20代女性に意見を伺った。

連も調べれば詳細な研究となろう。名詞文も対象としたより包括的な研究が望まれる。

3節のアゼルバイジャン語の分析では、ニュースサイトによって過去時を指す形式に揺れがあることを指摘した。これは高級紙・大衆紙の区別におよそ対応していると見られるが、これを厳密に区別することは困難である。インターネットが普及し、ニュースサイトも多様化した現代では、かつての大新聞・小新聞のように、紙面の版型や内容、読者層によって明確に二分することは困難である。ニュースサイトの定量的分析モデルの構築が今後の課題である。また、基本的に本論のデータは日刊紙、およびニュースサイトから採取している。日刊紙では数日以上前の出来事は「近過去ではない」(“non-recency”, Chovanec 2014: 161–165)とみなされる可能性があるが、週刊誌や月刊誌といった媒体、また現代よりも情報の伝達が遅かった時代でも同様の議論が成り立つか、調査するのも面白い。そういった意味でも、見出し文法の通時的変化や、新聞文化の世界的な伝播を分析することが有意義であろう。

#### 略号

ACC 対格 CV 副動詞 DAT 与格 f 女性 GEN 属格 INT 共格 LOC 所格 m 男性 NEG 否定  
P 所有接辞 PASS 受身 PL 複数 PTCP 形動詞 SG 単数

#### 引用文献

- 家木康宏 (1995) 「新聞の見出しの時制」『大阪教育大学英文学会誌』40, 39–51.
- 野口崇子 (2002) 「『見出し』の“文法”一解読への手引きと諸問題一」『講座日本語教育』38, 94–124, 早稲田大学日本語研究教育センター.
- 森山卓郎 (2009) 「新聞見出しの文法・序論」『日中言語研究と日本語教育 日中言語研究と日本語教育』2, 13–20, 好文出版.
- ライト, W. 後藤三男訳 (1987) 『アラビア語文典(下巻)』ごとう書房.
- Chovanec, Jan (2003) The uses of the present tense in headlines. *Theory and Practice in English Studies* 1, 83–92. Brno: Masaryk University.
- Chovanec, Jan (2005) The (un)conventional use of the simple past tense in news headlines. Jan Čermák, Aleš Klégr, Markéta Malá, and Pavlína Šaldová (eds.) *Patterns. A Festschrift for Libuše Dušková*. Praha: Charles University.
- Chovanec, Jan (2014) *Pragmatics of Tense and Time in News*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Develotte, Christine, and Elizabeth Rechniewski (2000) Discourse analysis of newspaper headlines: A methodological framework for research into national representations. Retrieved April 19, 2016, from <http://wjfms.ncl.ac.uk/titles.htm>.
- Dor, Daniel (2003) On newspaper headlines as relevance optimizers. *Journal of Pragmatics* 35, 695–721.
- Khodabandeh, Farzaneh (2007) A contrastive analysis of English and Persian newspaper headlines. Paul Robertson and John Adamson (eds.) *The Linguistics Journal* 2(1). 91–127.
- Kniffka, Hannes (1980) *Soziolinguistik und Empirische Textanalyse: Schlagzeilen-und*



- Leadformulierung in Amerikanischen Tageszeitungen*. Tübingen: Niemeyer.
- Mace, John (2003) *Persian Grammar: For Reference and Revision*. London: Routledge-Curzon.
- Mouillaud, Maurice, and Jean-François Tétu (1989) *Le Journal Quotidien*. Presses Universitaires de Lyon.
- Sandig, Barbara (1971) *Syntaktische Typologie der Schlagzeile. Möglichkeiten und Grenzen der Sprachökonomie im Zeitungsdeutsch*. München: Hueber.
- Schiffrin, Deborah (1981) Tense variation in narrative. *Language* 57 (1): 45–62.
- Schönig, Claus (1998) Azerbaijani. Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.) *The Turkic Languages*. London/New York: Routledge.
- Straumann, Heinrich (1935) *Newspaper Headlines. A Study in Linguistic Method*. London: Unwin Brothers Ltd.
- Thogmartin, Clyde (1991) The pragmatics of French newspaper headlines. Jef Verschueren (ed.) *Levels of Linguistic Adaptation*, 249–266. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Watson, Janet (1999) The syntax of Arabic headlines and news summaries. Yasir Suleiman (ed.) *Arabic Grammar and Linguistics*, 161–181. Great Britain, Cornwall: Curzon Press.
- Yağbasan, Mustafa (2008) Basın dili ve gazete manşetlerinin dilbilimsel analizi. *e-Journal of New World Sciences Academy* 2008–3(1), 114–127.

## Headlines: A Typology for Tense-Aspect

Kazuki AOYAMA

k.aoyama.macho@gmail.com

**Keywords:** Newspaper headline, headlines, tense-aspect, Turkish, Azerbaijani

### Abstract

Newspaper headlines tend to develop peculiar constructions conventionally, due to their stylistic constraints. The present paper investigates the use of tense-aspect markers in headlines. It is proved that in most languages, the tense-aspect system is reduced: one marker is used mainly (unmarked) to refer to past events; other markers (marked) are used where the contents of the article are surprising events, disclosures of events in distant past, or sequels to past events. The paper also gives a detailed description of Turkish and Azerbaijani headlines, the latter of which are against the cross-linguistic tendency. This will shed a new light on the role of headline research in general linguistics.

(あおやま・かずき 東京大学人文社会系研究科)